

2001 地震火山・世界子どもサミット～参加者のアンケート調査結果～

2001 World Wide Children's Earthquake-Volcano summit in Oshima. Outline of activities. The result of questionnaire survey.

地震・火山子どもサマースクールインストラクター・作業部会・実行委員会一同 桑原 央治, # 佐藤 明子[1]
Working group for Schoolchildren's summer course of seismology and volcanology Kuwabara Eiji, # Akiko Sato[1]

[1] 神田中学校

[1] Kanda Juior Hight School

<http://www.mmjp.or.jp/zisin-nfml/oshima/>

2001年7月20～22日の3日間、伊豆大島を会場とし、一般から募集した児童・生徒を対象として表記の子どもサミット行った。最終日、このサミットについてのアンケート調査を実施したので集計結果を報告する。また、企画の概要については、同報告の全体の概要を参照してほしい。アンケート内容は、1～5の項目については選択式、6～8の項目については記述式とした。記述部分では、多かった回答および特徴的な回答を紹介する。

1. この行事のことはどのようにして知りましたか。
ア. 博物館(1) イ. 役場・公民館(2) ウ. 友人(17) エ. 家族(26) オ. 学校(62) カ. 新聞・テレビ・ラジオ(7)
キ. ホームページ ク. その他(6)
2. 参加してみてどうでしたか。
ア. 楽しかった(84) イ. ためになった(67名) ウ. 普通(8) エ. あまりためにならなかった(1) オ. 楽しなかった(3)
3. どんどころが良かったですか。いくつかを してください。
ア. 大切断面見学 (52) イ. 羽浮港見学(25) ウ. 筆島見学(39) エ. 地震や津波のお話(58) オ. セミナーハウス(58) カ. 溶岩流出実験(50) キ. 岩脈形成・割れ目噴火実験(40) ク. 長根岬(24) ケ. 差木地(7) コ. GPSの使い方実験(19) サ. パネルディスカッション(26) シ. 三原山(58) ス. 割れ目火口見学(55) セ. その他 (なし)
4. 専門家の先生のお話はわかりましたか。
ア. よくわかった(49) イ. まあわかった(46) ウ. 少し難しい(30) エ. かなり難しい(3)
5. 世界や全国の人たちと交流できましたか。
ア. よくできた(55) イ. まあできた(49) ウ. 少しできた(19) エ. できなかった(5)
6. 良かった事は何ですか。
・ 全国や世界、年下、年上の人と仲良くなって友達がいっぱいできた。(61)
・ 地震や火山の被害の体験をした人と話げできた。
・ 専門家の先生の話が聞けたことや、専門家に質問ができたこと。(19)
・ 地震や火山について知識が深められた。(34)
・ 大島について理解できたこと、新しい発見ができた。(8)
・ 実験がよかった。(6)
・ 有珠山や昭和新山以外の山について学べてよかった。
・ 楽しかった(7)
・ 景色や環境がよかった、自然に触れ合えた。(11)
・ 大島に来られてよかった。(5)
(三宅を思い出せてよかった)
・ 日本人の子供たちが積極的に発言をしていたこと、日本人が親切にしてくれた。(台湾)
7. 悪かった事は何ですか。
・ 暑かった。(10)
・ 仲良くできなかった。(9)
・ 海に入りたかった。(6)
・ 三原山の頂上に行けなかった。(6)
・ 質問や発言ができなかった。(5)
・ 先生の話がきけなかった又は難しかった。(18)
・ ゆとりがほしかった。(7)
・ もっと別のことも勉強したかった。(5)
・ 実験をやりたかった。(4)
8. 学んだ事は何ですか。
・ 地震や火山は怖いだけでなく恵みもあるということ(20)

- ・地震や火山について(52)
- ・火山の知識について(50)
- ・大島の形について、住人にとっての三原山の存在、前の噴火について、大島の素晴らしさ、大島の知らなかったこと。(57)
- ・三宅島と大島の違いと共通点(4)
- ・災害みたいな出来事もみんなの笑顔で元気になれる。
- ・実験がわかりやすかった(6)
- ・いつも暮らしている大島でしたが改めて学ぶことが多かった。災害に対する考え方も大きくプラスに変わった。(大島中3)

多くの子どもが、友達が沢山できたことを挙げている。我々は、災害時にはたくさんの人との助け合いが必要なんだという事を強く訴えた。こうしたメッセージは子どもたちに届いたようだ。また、被災経験を持った子どもたちが、地震や火山について学ぼうとする参加者と交流し勇気付けられたと語った場面もあった。知識面では、幅広い年齢の子どもが集まったので専門家の話が難しく感じた子どももいたようだが、「学んだこと」の項目については、詳細を挙げると膨大な数になる程の回答を得た。地震や火山についての科学的な知識を専門家のサポートにより、自ら考え、発見し、理解したこと、地震や火山の生み出す自然の恵みについて多くの子どもが気付いたことは、このサミットの大きな成果であるといえる。

1. 参照サイト：2001年地震火山・世界子どもサミット <http://www.mmjp.or.jp/zisin-nfml/oshima/>
 2. 参照サイト：2001年地震火山・世界子どもサミットWEB中継 <http://www.mandala.ne.jp/ooshima/>
 3. 参照サイト：2001年地震火山・世界子どもサミット教材 <http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/oshima/OSkodomo.html>
- *インストラクター代表 **事務局長：桑原央治、実行委員長：入倉孝次郎